

「ありがとう」

南関町立南関中学校 二年 橋本紗貴

私は、体育大会のとき、突然倒れてしまいました。そして、次に気がついたときには、手足が動かなくて、見える範囲も狭くなっていました。左腕と、左手の親指、人差し指だけが、何とか動かせたのでした。

今まで、なんでもできていたのに、ほとんどのことが、自分ではできなくなってしまいました。大好きなバドミントンも、今はできません。

中学校に行けるようになった、ある日のことでした。ある先生の授業のとき、先生は私の前に立って、黒板に書いてあることについて、説明してました。しかし、私は書く速度も遅く、黒板を見ようとしても、先生の影になっていて、動けない私は、見ることができませんでした。

休み時間になって、今までは友達のをばに行って話をしていましたが、自分では行けず一人で休み時間を過ごす事もありました。トイレにも、自分ひとりでは行けず、友達に「連れて行って」と頼むこともできません。学校には、障がい者用のトイレもないので、友達が大変だろうと思ったからです。

今まで、なんでもなかった言葉、気にもしなかった態度一つ一つが、すごく気になりました。健常者と、障がい者が同じ学校で過ごすには、無理があるんじゃないか、私はこれから、どうしたらいいんだろう、と毎日、嫌なことばかり頭に浮かんでいました。時には、倒れたとき、あのまま意識が戻らないほうなんて考えたりもしました。

私の母も、足が不自由です。それでも、学校へ行くときは、杖をつきながらも私をおぶってくれます。車で学校まで送ってくれます。とても心配になって、「大丈夫？」と聞いても、笑って「大丈夫よ」と言ってくれます。

母の、広い背中におんぶされながら、あることを思い出しました。以前、まだ私が元気だったころ、足の不自由な母に、「何で杖をついているの？」「何で足が悪いの？」と責めてしまったことを思い出しました。今だからこそ、その時の母の辛さや、悲しみがわかります。そして、母はその辛さがわかるからなるべく私が生活しやすいように、いろんな事をしてってくれています。私の普段の生活だけじゃなくて、学校に障がい者用トイレを作ってほしいという相談に行ったり、家の玄関には、父と相談してスロープを作ったりしてくれています。ほかに、たくさん。

学校の友達も、まるで当たり前のように、車イスをかかえて、一緒に階段をのぼってくれます。教科書や、かばんの準備なども手伝ってくれます。そして何より、前と同じように、「おはよう」と言ってくれます。確かに前に書いたように、何気ないことで悩んだり傷ついてしまったりします。でも、そんなことが気にならなくなるくらい、友達はとても普通に、それでいてとてもやさしく、私に接してくれるのです。

今の私は、一人では満足に生きてはいけません。それでも私は私なりに、精一杯、自分で、できることを探しています。そして、できることを段々と、増やしていきたいと思えます。両親や友達、いろんな人達に支えてもらっている分、やっぱり、がんばらなくちゃと思います。昔、母が「あな

たがいるから、生活できています。ありがとう」と、言ってくれていました。

「ありがとう。」  
今、その言葉の意味が本当によくわかります。とてもこの一言では表せないけれど、それでも、この言葉でしか表せない、たくさん感謝の気持ちがあります。

両親に、いつも私を支えてくれて、ありがとう。

大切な友達に、いつも仲良くしてくれて、色々手伝ってくれて、ありがとう。

他にも、たくさんの人達に、ありがとう。  
最後に、たったここ数ヶ月の間で、障がい者になって、思ったことは、これから先まだ色々な人と出会って、辛いことも悲しいこともあるでしょうが、それでも、ちよつとした一言や態度が気になって傷ついてしまった事、教科書一冊準備してもらっただけでもありがたかった事、おはよう、の言葉がともうれしかった事、そういう事を、相手に伝えられるようになりたいと思いました。

いつか、元気になった時には、私と同じように苦しんでいたたり、悲しんでいる人達の声を聞いて、助けていけるような仕事につきたい、と思います。